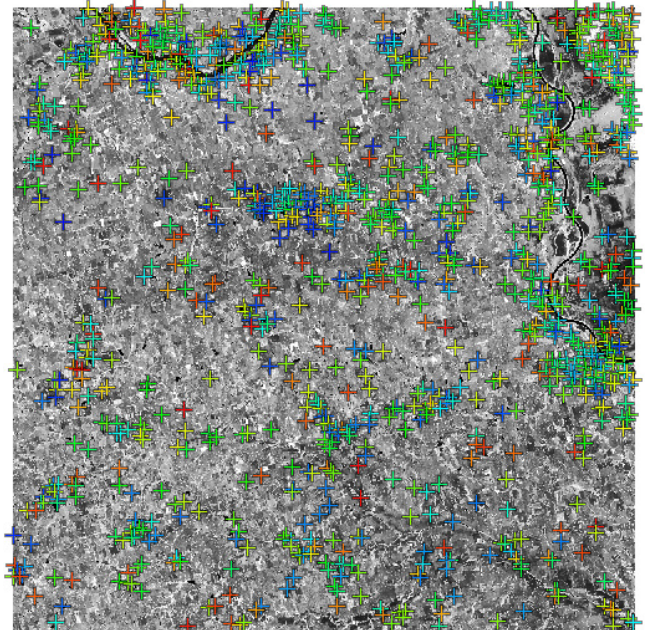


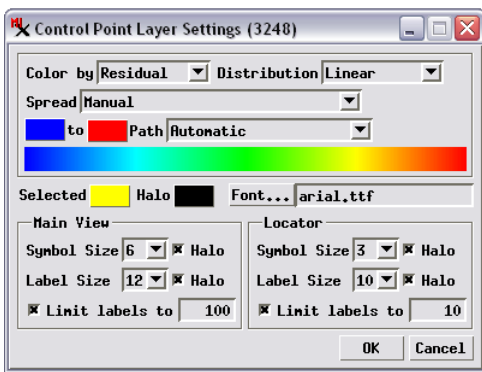
残差値によるコントロールポイントのスタイル付け

ジオリファレンス処理においてコントロールポイントは独立したレイヤとして入力および参照画面に表示されます。コントロールポイントのスタイルやラベルを設定したり、ラベルの自動非表示を設定して画面内のポイントの過密表示を防ぐことができます。また、残差値に応じてコントロールポイントを色分けできます。このオプションは自動登録処理で作成した大量のコントロールポイントの残差の空間分布を評価したい時に大変便利です(テクニカルガイド「ジオリファレンス：参照画像への自動登録 (Georeference: Auto-Register to Reference Image)」を参照)。このオプションを使うと残差の大きいポイントがひと目で分かるので、大きな残差値が地表面の地形やセンサーのレンズ、その他の要因に起因するものかどうかを判断できます。

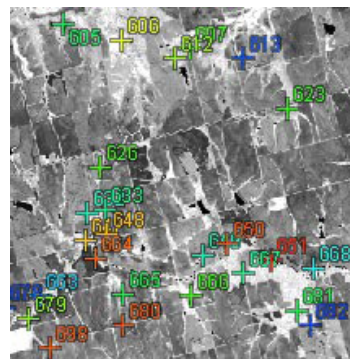
〈コントロールポイントレイヤ設定 (Control Point Layer Settings)〉ウィンドウにある [色分け (Color by)] メニューでコントロールポイントの色の設定方法を選択できます。[ステータス (Status)] オプションでは有効 / 無効なコントロールポイントに対して、表示するシンボルで使う色を選択できます。他の3つのオプションでは XY 平面内の絶対的な残差、X 方向、Y 方向の各成分残差値に基づいて適用する色の範囲を設定できます。これらの中から1つを選択すると、あらかじめ用意されている色の範囲か [マニュアル (Manual)] が指定できます。[マニュアル] では開始と終わりの色や適用ルート (RGB、HIS 右回り、



自動登録により生成した 1145 個のコントロールポイントのある SPOT5 衛星画像。残差値によりコントロールポイントの色を設定しています。コントロールポイントの色が目立つように、グレースケールの画像バンドの上に表示しました。ポイント数が現在のラベル数の上限 (100 個) を超えているのでこのズームレベルではコントロールポイントのラベルは表示されていません。



〈ジオリファレンス〉ウィンドウから [コントロールポイント] / [レイヤコントロール] メニューを選ぶと〈コントロールポイントレイヤ設定〉ウィンドウが開きます。または表示ウィンドウのサイドバーにある (もしくは〈レイヤマネージャ〉を開いていればその) コントロールポイントレイヤ名を右クリックしてポップアップメニューから [コントロール] を選びます。



コントロールポイントのラベルはズームイン表示してその画面内にあるポイントの数が [ラベル上限 (Limit Label to)] パラメータに設定した値よりも少なくなると自動的に表示されます。ここに表示されているポイントとラベルは周囲の色がデフォルトの黒で囲まれており、背景の明るさや色と差がはっきり見やすくなっています。

その他) を設定できます。[分布 (Distribution)] メニューでは残差値の分布の仕方を変えることができます。[リニア (Linear)]、[等頻度 (Equalize)]、[正規化 (Normalize)]、[対数 (Logarithmic)] から選べます。

〈コントロールポイントレイヤ設定〉ウィンドウの下段には〈ジオリファレンス〉ウィンドウのコントロールポイントリストで現在選択されているコントロールポイントに使用する色やコントロールポイントのラベルに使用するフォントを指定できる調整メニューが並んでいます。ポイントのシンボルやラベルの大きさも設定できます (単位は画面上のピクセル値)。サイズの調節はメインの表示画面とロケータ用に別々に用意されています。これらの設定は入力画面と参照画面の両方に適用されます。ポイントの

シンボルとラベルの両方に対して、周囲を別の色で囲んで背景と明るさや色を変えて目立たせるオプションが用意されています。デフォルトの周囲の色は黒です (任意の色を選べます)。

自動登録処理を使うと入力画像に対して数百から数千のコントロールポイントを生成できます。自動登録した画像をズームアウトすると、全ポイントのラベルが表示され作業中の画像が隠れてしまいます。〈コントロールポイントレイヤ設定〉ウィンドウではメインの表示画面とロケータ画面に表示するコントロールポイントのラベル数の上限を設定できます。表示されるポイントの数が上限値を超えるとラベルは自動的に非表示になります。ズームアウトしてポイントが多くなるとラベルは表示されず、ズームインして数が少なくなるとラベルは自動的に表示されます。